

日本の方向へ流れた煙の話
ノモンハンの遺骨収集に参加して

佐波優子
日本文化
チャンネル
キャスター



佐波優子さん

はじめに：

フェイスブックでお馴染みの佐波優子さんのノモンハンの遺骨収集に参加した時の話を紹介します。(編集子)

『今から十年以前の忘れられない光景を話します。先の大戦では二百四十万人の日本の兵士が戦死しました。今でも各戦跡にはご遺骨が眠っています。長年遺骨収集に携わっているご遺族の方からこんな話を聞きました。

「現地でご遺骨を荼毘に付した時、不思議なことに最初に上がる煙は日本の方向に流れるんだよ」という話です。

そのあと私は「ノモンハン事件」という日本とソ連の戦いがあったモンゴルへ遺骨収集に行きました。現地ではご遺族や元兵士と共に土を深く掘りご遺骨をお迎えしました。あるご遺骨は合掌するように両手を合わせていました。

別の方は指の骨一片しか見つかりませ

んでした。ソ連の装甲車の上に頭部のない体だけが見つかりました。こうしてお迎えした幾柱のご遺骨を荼毘に付したときです。

あるご遺族が私に煙が日本の方角に流れていることを教えてくれました。それは一瞬のことで風向きは偶然かもしれませんが、けれどもその方が、親父たちはこれで無事に日本に帰れる。良かった」と安堵してつぶやいたのを見て、「ご遺族にとって戦死した兵士のお父さんを祖国にお連れすることは何よりも大事なことのだな」と心から思いました。

そして戦死した兵士たちが戦後何十年経った今でも家族からかけがえのない存在として思われていることはすごいことだと思いました。その後、ノモンハンから帰国した幾柱のご遺骨はここからすぐ近くにある千鳥が淵戦没者墓苑に納骨されました。そしてここ靖国神社ではその御霊が祀られています。戦死した兵士は祖国を護るため亡くなりました。

沢山の方が今みたままつりに訪れていることは英霊の皆様にとっての慰霊と追悼になっているのだと思いました。』

おわりに：

佐波さんのように若い方が我々の思いを受け継いでくれることは素晴らしいことだと思います。まだまだ日本は捨てたものではありません。(編集子)



佐波さんの
直筆の絵と文